

《資 料》

神戸薬科大学 1 年生の意識調査

—甲南大学経営学部 1 年生との比較検討—

長嶺 幸子^{†1}、大久保一徳^{†2}、松家 次朗^{†3}、西村 順二^{†4}

神戸薬科大学医療薬学総合研修センター^{†1}

神戸薬科大学社会科学研究室^{†2}

神戸薬科大学人文科学研究室^{†3}

甲南大学経営学部^{†4}

緒 言

今、薬学教育においては、薬物療法に関わるすべてに責任を果たし得る確固たる使命感と高度な薬学知識および技能を持つと同時に、医療の一翼を担う職能人としての自覚と認識を持った薬剤師の育成が社会から求められている。医療人としての使命感を持った有能な薬剤師を養成するための合理的で効果的な教育システムを展開するためには、薬学生の実証的な意識調査が必要である。そこで神戸薬科大学に入学してきた学生が薬学や薬剤師の職能に対して、どのような意識を持っているのか、またどのような目的意識を持って薬学に進学してきたかを調査することを目的に、1 年生にアンケート調査を行った。今回他学部（甲南大学経営学部）の新入生の意識調査を行う機会が得られたので、大学進学目的などについて薬学部学生との比較検討を行った。若干の知見が得られたので報告する。

*2004年12月28日受理。

方 法

アンケート調査

調査対象は、平成15年入学の神戸薬科大学1年生全員(281名)を対象に行った。アンケートを実施した時期は、大学生活に少し慣れた6月初旬、語学の授業時間の最後に行った。調査方法は、授業の最後にアンケート用紙を配り、記入後、すぐに回収を行った。甲南大学の学生については、平成15年に入学した1年生で、前期にマーケティング総論を受講している学生(187名)を対象に、6月末にアンケートを行った。調査の方法は、薬科大学と同様に授業時間の最後にアンケート用紙を配り、記入後、すぐに回収を行った。アンケートの内容は、回答者の背景を知る目的で、「性別」、「下宿生か自宅通学生か」、「クラブ、サークルに入っているかどうか」、「講義や試験の情報はどこから入手するか」、「家族、親戚に薬学出身者はいるか(神戸薬科大学生)」などの項目について尋ねた。その他「大学進学目的」「薬学部あるいは経営学部に進学を勧めたのは誰か」「薬剤師の職業をどのように考えているか」「医療人の一員として薬剤師が仕事をしてゆくにあたってどのような資質が必要か」といった項目の質問をつくり、薬学部と経営学部の学生の間で違いがあるのかどうかについて検討を行った。

解析

統計的な差は χ^2 独立性の検定、マンホイットニー検定(両側検定)によって確認した。 $P<0.05$ を統計的に有意であると判断した。

結 果

アンケート結果

1) 回答者数と回答者の背景

神戸薬科大学の学生の回答者数は232名で、回収率は83%であった。回答者の男女比率は、男子32%、女子68%であった。自宅通学生が65%、下宿生が35%という内訳になっている。またクラブやサークルに入っている学生は72%、入っていない学生は28%であった。「講義や試験の情報はどこから入手しますか」という質問では、先輩が一番多く60%であった。その次ぎは友人で34%であった。(Fig.1)

甲南大学経営学部の学生の回答者数は112名で、回収率は60%であった。回答者の男女比率は男子51%、女子49%であった。自宅通学生が87%、下宿生が13%となった。またクラブに入っている学生は78%、入っていない学生は22%であった。「講義や試験の情報はどこから入手しますか」という質問では、一番多かったのは友人の62%で、次いで先輩の28%であった。(Fig.2)

薬学部の学生は、試験等の情報を友人から得るよりは、先輩を頼りにしていることが伺える。

	神戸薬科大学 (回収率83%)	甲南大学経営学部 (回収率60%)
男子学生の割合	32%	51%
女子学生の割合	68%	49%
下宿生	35%	13%
自宅通学生	65%	87%
クラブに入部	72%	78%
クラブに入っていない	28%	22%

Fig.1 試験などの情報はどこから入手しますか？
(神戸薬科大学)

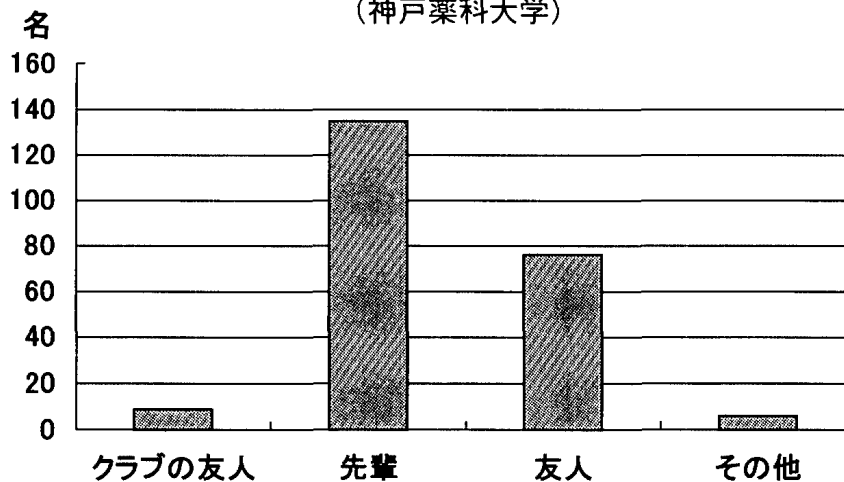
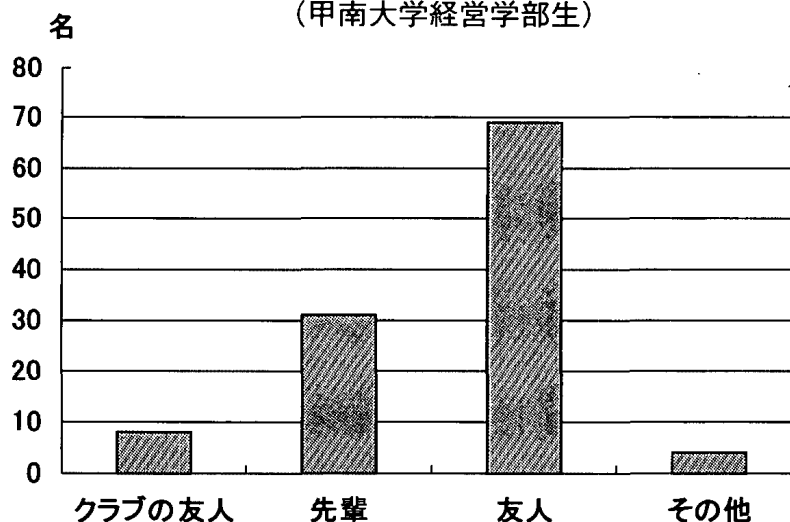


Fig.2 試験などの情報はどこから入手しますか？
(甲南大学経営学部生)



2) 「大学進学目的」に関するアンケート調査

(I) 薬学部を選んだ目的は何ですか？

神戸薬科大学の学生に「薬学部を選んだ目的は」という質問項目では、7項目の選択肢からもっとも当てはまる項目を一つ選んで回答してもらった。

7つの選択肢

1. 薬剤師として仕事ができるから
2. 薬剤師以外の就職にも有利だから

3. 創薬の仕事がしたいから
4. 薬の研究をしたいから
5. 化学を勉強したいから
6. 親が勧めたから
7. その他

その結果、「薬剤師として仕事ができるから」と回答した学生は42%、「薬剤師以外の就職にも有利だから」が7%、「創薬の仕事がしたいから」12%、「薬の研究がしたいから」18%、「化学の勉強がしたいから」9%、「親が勧めたから」5%、「その他」7%となっていた。薬剤師になりたいからと回答した学生は、42%に過ぎなかった。(Fig.3)

(Ⅱ) 経営学部を選んだ目的は何ですか？

甲南大学経営学部の学生では、「経営学を選んだ目的は」という質問項目では神戸薬科大学の場合と同じ7項目の選択肢からもっとも当てはまる項目を一つ選んで回答してもらった。

7つの選択肢

1. 税理士・会計士になりたいから
2. ビジネスマン・ビジネスウーマンとしての就職に有利だから
3. 起業・ベンチャーの仕事がしたいから
4. 経営の研究をしたいから
5. 経営学を学びたいから
6. 親が勧めたから
7. その他

その結果、「税理士・公認会計士になりたいから」と回答した学生は14%、「ビジネスマン・ビジネスウーマンとしての就職に有利だから」と回答した学生は39%、「起業・ベンチャーの仕事がしたいから」と回答したのは10%、「経営の

研究がしたいから」1%、「経営学を学びたいから」が12%、「親が勧めたから」4%、「その他」20%となった。(Fig.4)

薬学生が薬学部に進学した目的は、薬剤師あるいは創薬、研究といった比較的明確な目的意識をもった学生が72%であった。薬学部と経営学部の学生がそれぞれの学部を選んだ目的について比較検討した結果、甲南大学の経営学部の学生では、税理士・公認会計士や起業・ベンチャーの仕事、経営の研究がしたいといった明確な進学目的意識をもった学生は25%であった。進学目的意識について、神戸薬科大学学生と甲南大学経営学部学生の間で有意な差が認められた ($P<0.01$)。

Fig.3 薬学部を選んだ目的は？（神戸薬大生）

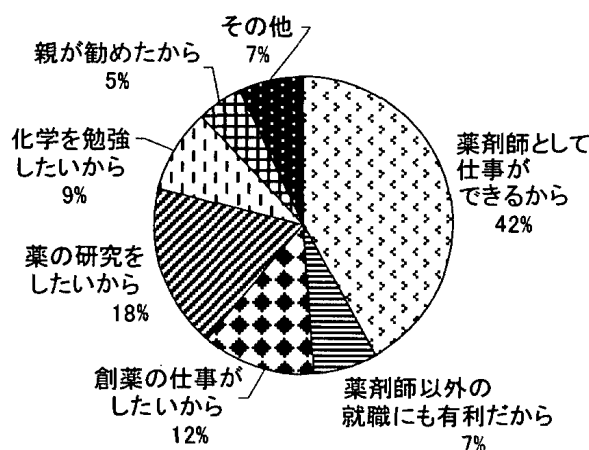
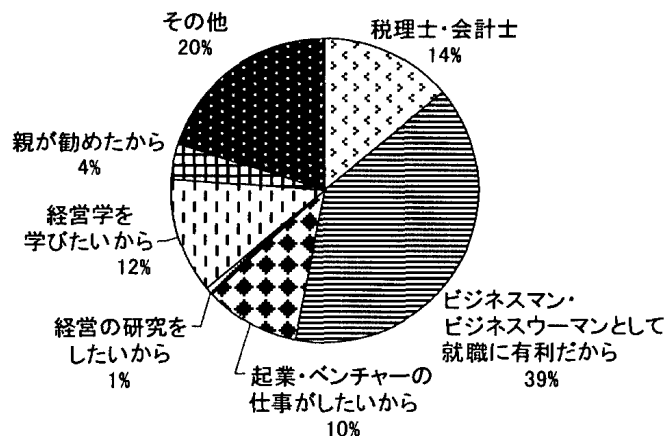


Fig.4 経営学部を選んだ目的は？（甲南大学生）



3) 「学部選択」にもっとも影響を及ぼした人に関するアンケート調査

「薬学にあるいは経営学部に進むことを勧めたのは誰ですか」という質問項目について、薬学部学生と経営学部学生との間で比較検討を行った。

(I) 薬学あるいは経営学部に進むことを勧めたのは誰ですか？

8項目の選択肢からもっとも当てはまる項目を一つ選んで回答してもらった。

8つの選択肢

1. 両親 2. 兄弟 3. 小学校の先生 4. 中学校の先生
5. 高校の先生 6. 予備校の先生 7. 自分自身で決めた
8. その他

その結果、Fig.5に示すように薬学の学生では「自分自身で決めた」と回答した学生が54%、次に多かったのが「両親に勧められた」と回答した学生で37%であった。またFig.6に示すように経営学部の学生では、「自分自身で決めた」と回答した学生は69%と約7割の学生が自分自身で決めたと回答した。そして「両親に勧められた」と回答した学生は11%に過ぎなかった。大学進学に対して、薬学部の学生は経営学部の学生よりも、両親の影響が大きいことがわかった ($P<0.01$)。

神戸薬科大学の学生で、薬学部に進学することを両親に勧められて入学した学生の進学目的をみると、「薬剤師としての仕事ができるから」を選択した学生は48%、「薬剤師以外の就職に有利だから」とした学生は7%、その他「創薬の仕事がしたいから」が7%、「薬の研究をしたいから」が15%、「化学を勉強したいから」は6%、「親が勧めたから」が12%、「その他」とした学生が4%となった。両親に勧められて薬学部を選択した学生のうち、7割は進学目的に薬剤師、創薬、薬の研究といった比較的明確な目的意識を持っていることがわかった。

Fig.5 薬学進学を勧めたのは誰ですか？
(神戸薬科大学学生)

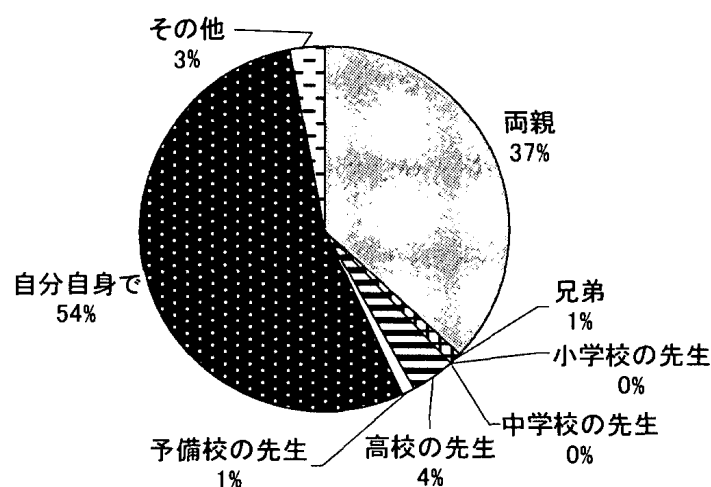
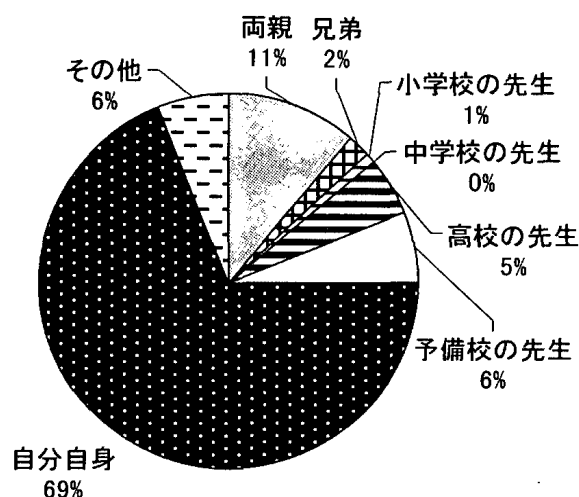


Fig.6 経営学部への進学を勧めたのは誰ですか？
(甲南大学生)



(Ⅱ) 学部選択に影響を及ぼした人の調査で、男子学生と女子学生との間で比較した場合 (Fig.7、Fig.8)

神戸薬科大学の学生では、「薬学部に進学することを勧めたのは誰ですか」という質問では、男子学生の63%が自分自身で決めたと回答しており、両親に勧められたからと回答した学生は25%であった。女子学生では自分自身で決めたと回答した学生は51%で、両親に勧められたと回答した学生は42%であった。傾向としては、女子学生の方が薬学部進学に対して両親の影響を受けてい

ることがうかがえるが、統計学的に有意な差は認められなかった (Fig.7)。

甲南大学経営学部学生では、「経営学部に進学を勧めたのは誰ですか」という質問には、自分自身で決めたと回答した学生は、男子学生では63%、女子学生では75%であったが、男女間で有意な差は認められなかった。また両親に勧められたからと回答した学生は、男子学生で12%、女子学生で9%であった (Fig.8)。

Fig.7 薬学進学を勧めたのは誰ですか？ (神戸薬科大学学生)
(男女差)

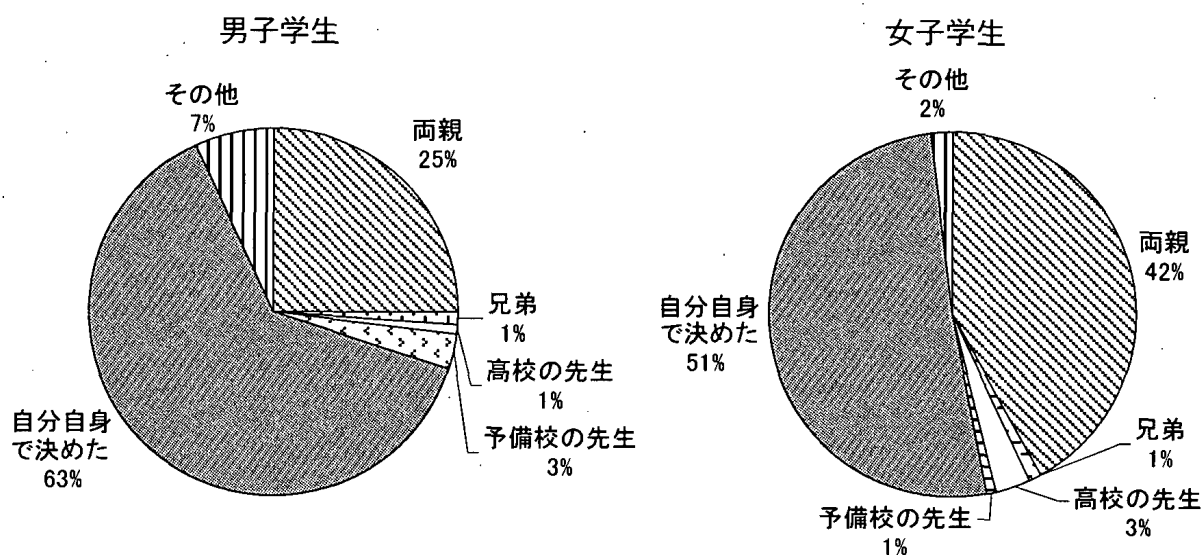
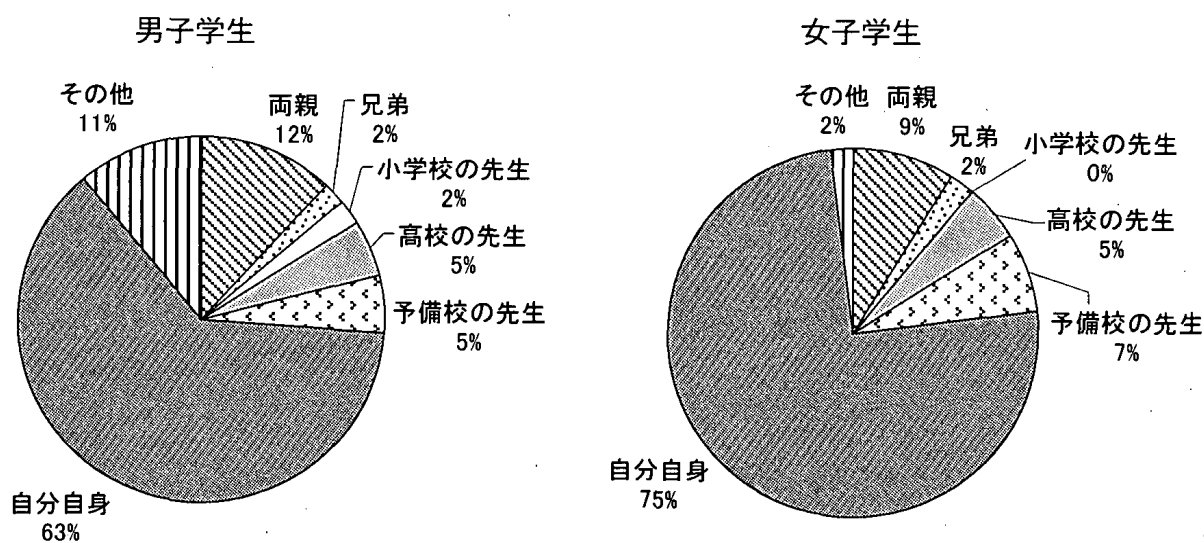


Fig.8 経営学部進学を勧めたのは誰ですか？ (甲南大学生)
(男女差)



(Ⅲ) 薬学出身者が家族、親戚にいる場合

薬剤師あるいは薬学関係者がいる学生は60名、回答者の26%を占めていた。薬学進学を勧めたのは誰かという質問に対するこの60名の学生の回答は次のような結果になった。「両親」と回答した学生は32名(53%)、「兄弟」と回答した学生は3名(5%)、「自分自身で決めた」と回答した学生は24名(40%)、その他1名(2%)であった。

その他、医療関係の仕事についている人が家族、親戚にいるかどうかについては、「いる」と回答した学生は118名で、全体の53%を占めていた。この中で、薬学進学を親に勧められた学生の割合は37%であった。

4) 「薬剤師の職業」についてのアンケート調査

「薬剤師の職業についてどのように思いますか」という質問項目では、薬学部と経営学部の学生の間で差があるかどうか、比較検討を行った。

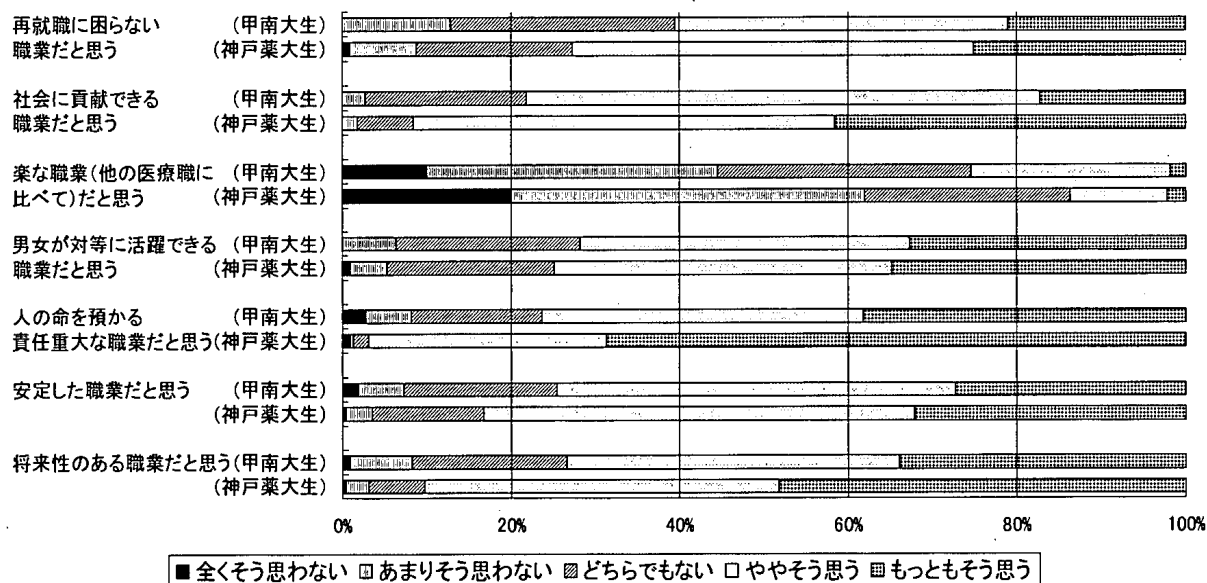
質問項目

1. 将来性のある職業だと思う
2. 安定した職業だと思う
3. 人の命を預かる責任重大な職業だと思う
4. 男女が対等に活躍できる職業だと思う
5. 楽な職業（他の医療職と比べて）だと思う
6. 社会に貢献できる職業だと思う
7. 再就職に困らない（年をとってからでも）職業だと思う

上記の7項目の質問項目について、5. もっともそう思う、4. ややそう思う、3. どちらでもない、2. あまりそう思わない、1. 全くそう思わないの5段階で回答してもらった。(Fig.9)

神戸薬科大学学生と甲南大学経営学部学生で比較検討を行った。その結果、薬剤師の職業について、薬学部、経営学部の学生とも、薬剤師の職業は安定し

Fig.9 薬剤師の職業について



た職業で、男女が対等に活躍でき、年をとってからも再就職に困らない職業だと考えている傾向が認められた。そして薬剤師という職業を、薬学部の学生が「人の命を預かる責任重大な職業」で、「社会に貢献できる職業」と思っているほどには、経営学部の学生は考えていないことがうかがえる。

5) 「医療人（薬剤師）として必要な資質」に関するアンケート

「医療人（薬剤師）としてどのような資質が必要だと思いますか」という質問項目では、薬学部と薬学部以外（経営学部）の学生の間で差があるかどうか、比較検討を行った。

質問項目

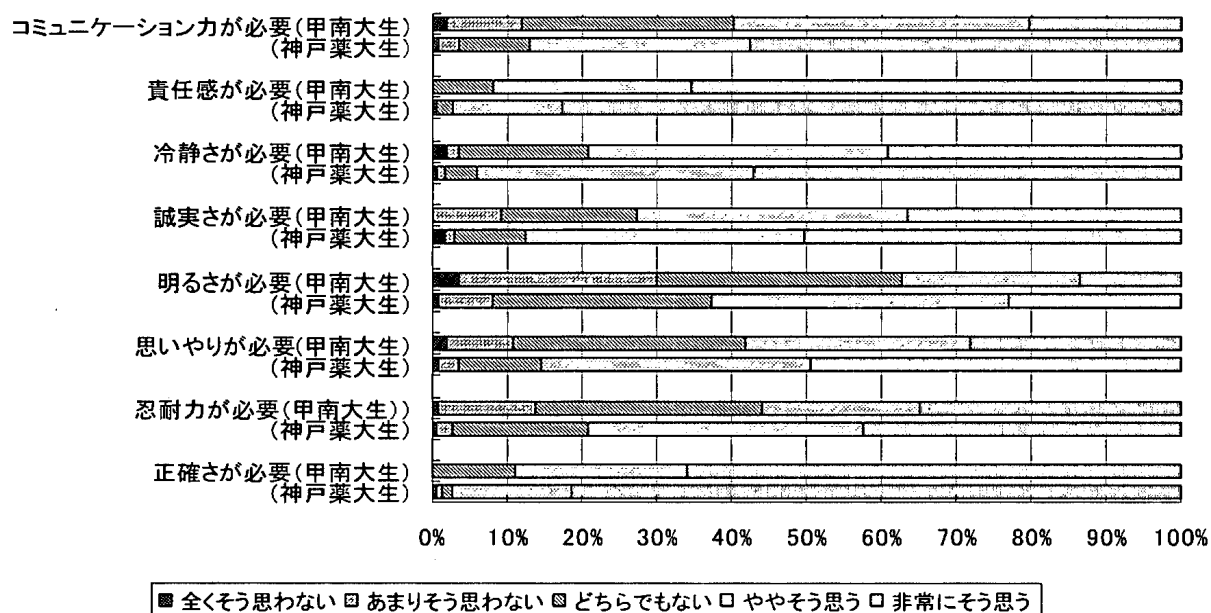
1. 「正確さ」が必要
2. 「忍耐力（粘り強さ）」が必要
3. 「やさしさ（思いやり）」が必要
4. 「明るさ」が必要
5. 「誠実さ」が必要
6. 「冷静さ」が必要

7. 「責任感」が必要

8. 「コミュニケーション力」が必要

上記の8項目の質問項目について、5. もっともそう思う、4. ややそう思う、3. どちらでもない、2. あまりそう思わない、1. 全くそう思わないの5段階で回答してもらった。(Fig.10)

Fig.10 医療人として資質について



神戸薬科大学学生と甲南大学経営学部学生の間で結果を比較検討した。「責任感」や「正確さ」については、経営学部の学生もある程度必要であると認識しているが、「コミュニケーション力」や「思いやり」は、それほど必要性を認めていない。薬学部の学生も「責任感」や「正確さ」といったことは必要であると認識しているが、「誠実さ」や「忍耐力」「やさしさ (思いやり)」については、それほど必要であると認識しているとは思われないが、経営学部の学生よりは、まだ必要であると認識していた。経営学部の学生と比べて、薬学部の学生は少しは医療人として何が必要か理解していることが伺えた。

考 察

神戸薬科大学の学生は、薬学部進学において、親や家族の考え方にかなり影響を受けることがわかった。「薬学進学を勧めたのは誰ですか」の質問に「その他」を選んだ学生の中には、祖母や親戚に勧められたという学生もいた。兄弟に勧められたと回答した学生も加えると、実に回答した学生の4割が周囲の勧めによって薬学部に進学してきている。特に、家族に薬学関係者がいると回答した学生のうち、親に勧められて薬学部に入學した学生が半数を占めていた。

経営学部の学生は、学部選定するとき、自分自身で決めたと回答した学生が多かった。また家族に経営学部出身者のいる学生は26%、この中で親が経営学部に進むことを勧めたのは10%であった。神戸薬科大学に入學してきた学生と比べて、顕著な違いが認められた。

進学目的を見ると、薬学部の学生は将来「薬剤師として仕事がしたい」あるいは「創薬」や「研究」といった明確な目標をもっている学生が7割を占めていることがわかった。親から勧められて薬学に進学してきた学生のなかにも、自分なりの将来を考え、選択していることが読み取れる。しかし本当に将来薬剤師の資格を生かした仕事に就きたいから薬学を選択した学生となると、それほど多くはないと思われる。自由記述の感想文を見ると、薬剤師として仕事をしたいから薬学部に入學したのではなく、「経済的に安定しているから」や「就職に困らないから」という記述も見られ、また「医学部に入るのは難しいけれど、薬学部ならそれほど難しくなく、資格もとれるから」といった現実的な考えで薬学に進学してきている学生が多く、薬学を学ぶ意義を十分に認識していない学生が多くなってきた。ここ数年来1年生の意識調査を行ってきたが、社会における経済の低迷が長引くにつれて薬学部進学の原因に、資格がとれるため経済的に安定するからと考えて入學してくる学生が目立つようになった。そ

のためか薬剤師の仕事にそれほど意欲的でない学生が増えてきているように思われる。また親に勧められて入学した学生の中には、特に目標もなく、薬学を選んだ目的についても「親が勧めたから」という回答肢を選択する学生が全体の5%を占めていた。このような特に将来に対する目的のない学生や、現実的な条件で選択し進学してきている学生に、薬学を学ぶ意義を認識させ、意欲をもたせるような動機付け教育の構築が求められていることを、これらの結果は示唆していると考えられる。